



2017年11月10日発行

けんいちだより

発行責任者：(公明党 さいたま市議会議員) さいとう健一 住所：さいたま市見沼区深作 3-22-7

9月定例会活動報告

さいたま市議会 9月定例会が、9月6日(水)から10月20日(金)の45日間の会期で開かれました。

今回の定例会では、通常の条例議案や補正予算議案などのほか、平成28年度の決算議案が決算特別委員会で長期間にわたり審議されました。

私の所属する文教委員会では、**1. 教員の長時間勤務の是正について、2. 道徳教育について、3. 学校飼育動物について**議案外質問を行いました。



1. 教員の長時間勤務の是正について

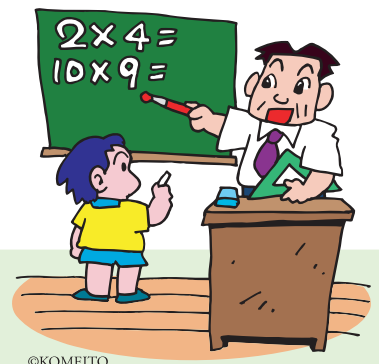
- (1) 教員の勤務実態と長時間勤務の要因について
- (2) 教員の多忙化解消に向けた取り組みについて
- (3) 部活動の外部指導員の体制づくりについて

2. 道徳教育について

- (1) さいたま市が目指す道徳教育について
- (2) 道徳教育の課題について

3. 学校飼育動物について

- (1) 学校飼育動物の現状について
- (2) 獣医師との連携について



©KOMEITO

1. 教員の長時間勤務の是正について

<質問要旨>

教員の勤務環境は、本年4月の勤務実態調査でも長時間勤務の実態が示されたとおり、極めて厳しい状況にあります。このような状況が続けば、教員の心身の健康が損なわれるとともに、学校における子ども一人ひとりに合った質の高い教育を持続することは不可能となってしまうため、その対策を教育委員会としてしっかり講ずる必要性を質問しました。

<答弁要旨>

平成28年度は正規の勤務時間を除く1人当たりの在校時間は、1か月平均61.8時間で、月に100時間を超えた教職員数は、平成28年度は89名おりました。学校では年間の計画を見直して、例えば会議の時間や回数を減らす、あるいは校務用コンピュータを効率的に活用する、また、ノー残業デーを設定して取り組んでいます。

また教員の業務の中には、必ずしも教員免許証が必要でなくてもできる業務があることは認識をしておりますので、教員業務の補助をするスクールサポートスタッフにつきましては、教育委員会といたしましても、教員が授業改善に取り組んだり、子どもと向き合う時間をしっかりと確保していくために、大変重要な施策と考えております。さらに、学校からの要望等を丁寧に把握し、統合型校務支援システムの活用の可能性を検討しながら、より一層有効な活用ができるようにシステムの検討してまいります。

発達障がい早期発見・診断への取り組みと実現へ!



5月11日 一般質問に先立ち、長崎での M-CHAT 診断を取り入れた早期発見の取り組みについて、長崎大学の岩永竜一郎教授よりヒアリングを行う。



6月13日 さいたま市定例会一般質問において、1歳半児健診に M-CHAT の導入を行うべきと質問。



9月4日 国立精神・神経医療センターを訪問。児童・思春期精神保健研究部神尾陽子部長より、発達障がいの早期発見について、M-CHAT 導入の重要性について再確認を行う。

6月定例会一般質問において、1歳児半乳幼児健診への M-CHAT (エムチャット) の導入の推進について質問しました。

【質問の要旨】

発達障害の早期発見、そして早期療育を進める施策として、さいたま市においても1歳半児健診に M-CHAT 導入を行うべきだと考えますが、市の見解を伺います。

【答弁の要旨】

自閉症スペクトラム障害の評価指標として有効とされる M-CHAT 1歳6か月児健康診査に取り入れることは意義あることと考えている。1歳6か月健康診査の中で M-CHAT 質問項目を参考にしながら、健診票の見直し及び事後フォロー体制の再構築に向けて検討してまいります。



10月30日 東京都江戸川区を訪問。1歳6か月の歯科検診の際に、M-CHAT を活用している事例について確認。



公明党さいたま市議会議員団より、清水勇人さいたま市長へ平成30年度の予算編成並びに施策に対する要望書を提出!!



10月20日 公明党さいたま市議会議員団として、清水勇人さいたま市長へ平成30年度予算編成並びに施策に対する要望書を提出しました。要望内容は、子育て支援・教育・健康・シニア世代支援・障がい者支援・災害対策・まちづくりなど、67項目に涉り要望。この中で、「発達障がいの早期発見・早期療育の推進」として M-CHAT の導入により、医療機関への受診につなげやすくすることなども要望に取り入れられました。

(写真の一番左側が齊藤健一)